

I - C - 17

牛車腎気丸が奏功した糖尿病性腎症に由来するネフローゼ症候群の一例

愛媛県中央病院、*松山西病院

○赤松 明、*多嘉良 稔

【目的】糖尿病性腎症のうちネフローゼ症候群を呈するものは多く進行性かつ難治性病態を呈する。この病態改善の目的で近年、漢方方剤を加味した加療に深い関心が払われてきている。我々もすでに本症病態の不均一性から各病期別漢方的アプローチを提唱しているが、ある程度進行した病期のものについては牛車腎気丸が有用であるとの結果を得ている。今回は、重篤な病態を呈した糖尿病性腎症例に本剤を適用し、著明な病態改善がもたらされたのでその臨床経過を含め報告する。【対象】症例は49才女性で、呼吸困難を主訴として来院した。入院時病態は、アナザルカの状態で胸水を伴いネフローゼ症候群を合併していた。糖尿病については、いわゆるトリオロパシーを呈し、糖尿病性腎症、糖尿病性神経症の他に前増殖網膜症を示す糖尿病性網膜症が認められた。【結果】入院当初の治療は主として心不全に対し行われた。蛋白尿はこれらの治療によりやや減少したが、アナザルカが消失した時点でも依然として多量の漏出が認められたため腎生検を施行した。病理組織学的には中～高度に障害された糖尿病性腎症であった。組織病変確定後、すでに施行してあった食事療法や薬物療法に加え、ベラプロストナトリウム120 μ g/日を、続いてツムラ牛車腎気丸エキス顆粒7.5g/日を分3にて投与した。処方後約1ヶ月で蛋白尿は0.5g/日程度に著減し、ネフローゼ病態の改善をみた。網膜症についても約1年後に検討を加えたが、病態の進行はないと判断された。【考察および結論】糖尿病性腎症のうちネフローゼ症候群を呈するものは、すでに腎不全病態にあると考えられ、一般に難治で加療にあまり反応せず急速に末期腎不全へと至ることが多い。また、時期には種々の合併症を含む複雑な病態を呈するため、治療に際しては総合的かつ包括的手法が求められ、まさにこの点に漢方的治療の有用性が模索される余地がある。我々はすでに病期別の漢方的アプローチを提唱し、本例には牛車腎気丸が有用であろうと考え適用した。臨床経過からみて本剤は十分奏功したと考えられるが、同時に併用したプロスタグランディン製剤の関与は当然あると考えられ今後の検討を必要とする。ただ従来の治療手法のみでは難治である本例のごとき病態が長期に亘り改善されたことはこの治療法が今後十分に試用に値することを示唆していると考えられた。